

言語活動の充実をめざす学校支援

上越市立国府小学校チーム

清水 登紀子 (M1)

井上 功太郎 (M1)

鈴木 詩織 (M1)

松本 修 (アドバイザー)

寺田 喜男 (特任教授)

国府小学校研究主題

「豊かな言語活動をととして、
学びを深める児童の育成」

各教科・各領域における言語活動の充実を
めざす単元・授業づくりの支援活動。

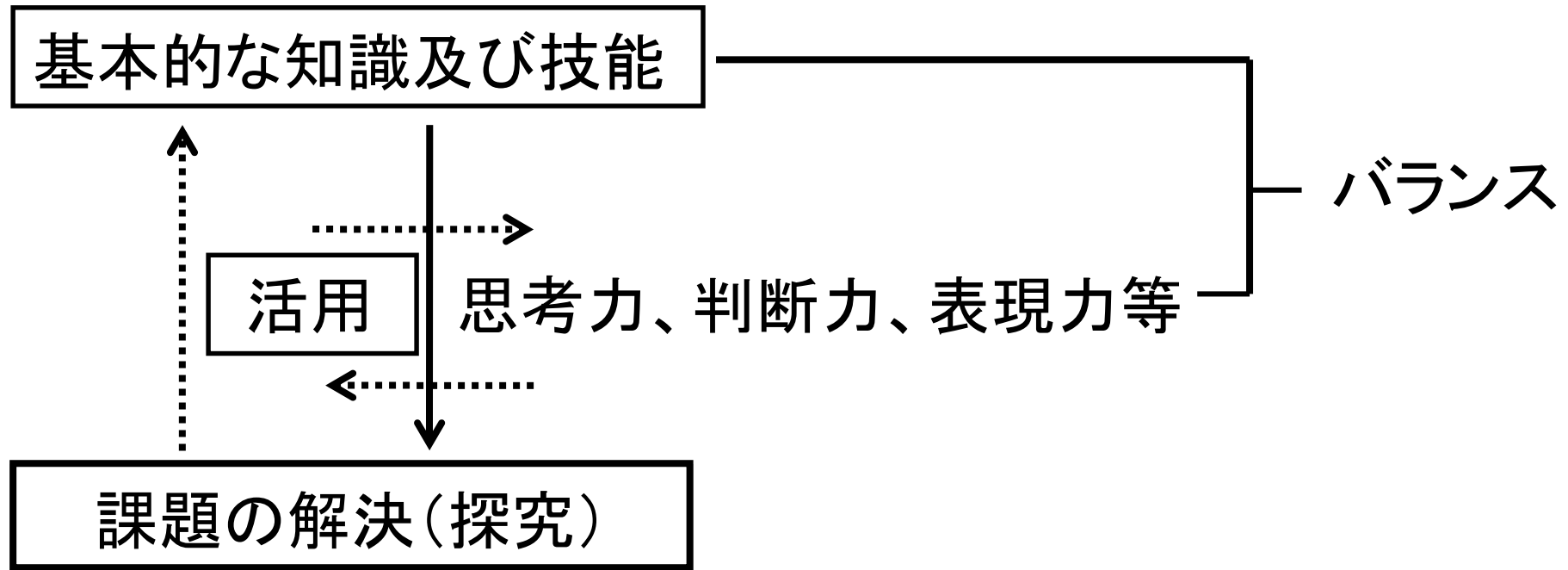
言語活動の充実とは

文部科学省(2008)

今回の改訂においては、言語活動の充実が重視されている。このため、配慮事項として、各教科等の指導に当たっては、児童の思考力・判断力・表現力等をはぐくむ観点から、基礎的・基本的な知識・技能の活用を図る学習活動を重視するとともに、言語に関する能力の育成を図る上で必要な言語活動の充実が必要であることを示した。

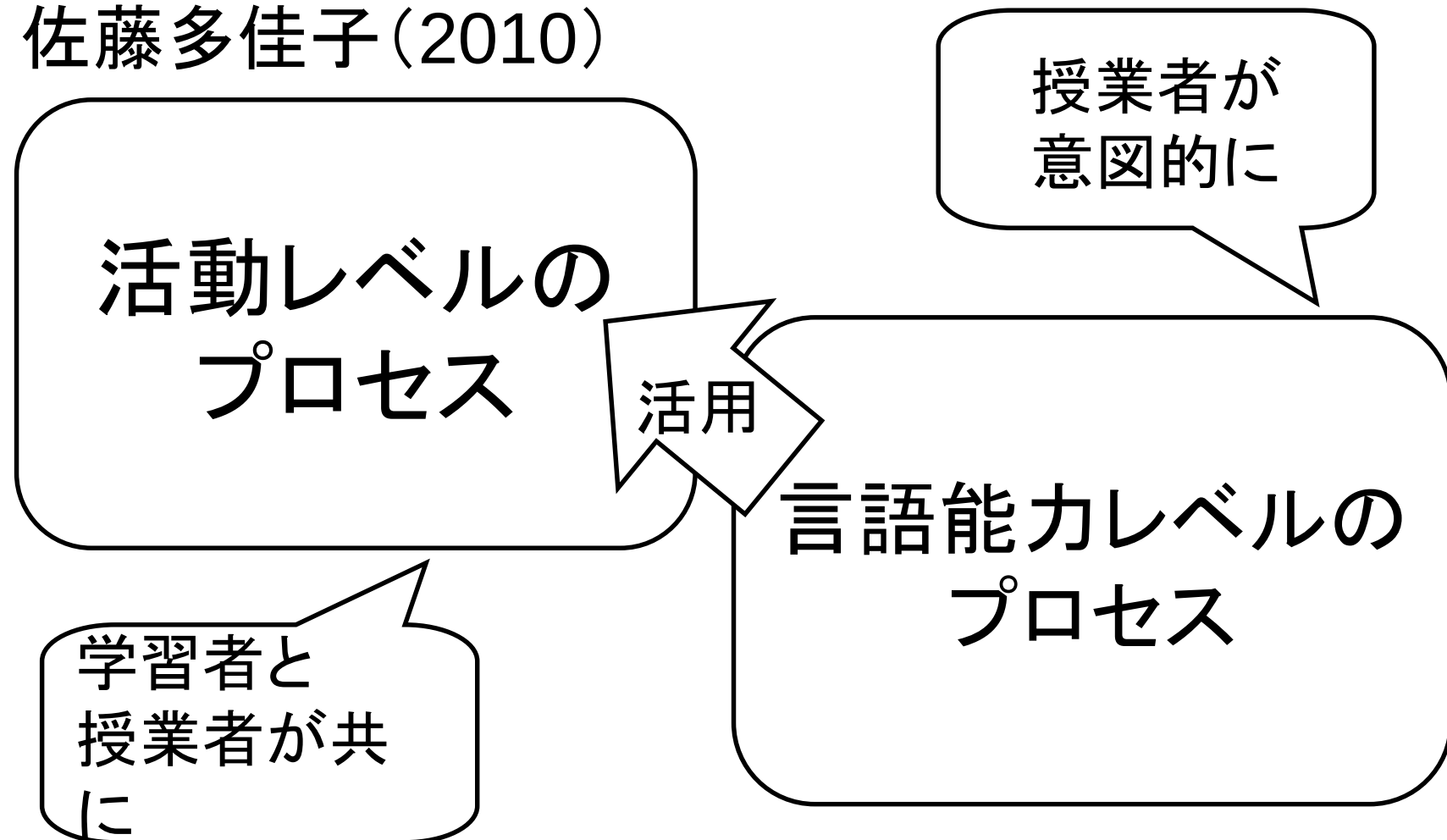
「習得」「活用」「探究」

松本修(2009)



活動レベルのプロセスと 言語能力レベルのプロセス

佐藤多佳子(2010)



言語活動のとらえ方

松本(2010)

- ・ 習得・活用・探究の関係との関連から考える。

実の場の保証

探究的な活動の中で活用を図ることにより、

言語的思考の→ 知識・技能 を たしかなもの とする
[] の→
算数・国語・図工 etc.

探究的な活動→活動目標・学習者がめざす学習目標	創造的
知識・技能 →指導目標・先生の設定する学習目標	文化的

- ・ 探究的な活動としての言語活動を作る。

コミュニケーション（相互作用）の重視←→コミュニケーションな学習集団
コミュニケーションのための言語的思考の知識・技能の重視
・・・比較、帰納、etc.

〈言語活動のつくり方〉

- ① 学習者間のコミュニケーションをつくる。
＝コミュニカティブな集団をつくる。
- ② 自他を「比較」し、「異同」がわかり、「説明」できる。

国語科の学習デザイン

〈国語科における言語活動〉

1) 形式(話すこと・聞くこと、書くことの知識・技能)を重視

2) 形式だけではだめ。内容をつくる。

- ・ 国語科の授業の中で内容をつくる。
(例 読むこと)
- ・ 他教科・領域と連携する
(例 図工・音楽)

国語科授業の実際

単元名 「見て！聞いて！ぼくの・わたしのロボット
～友だちにわかるように話そう～」 （小学校2年生 全7時間）

※ 光村図書2年国語「あったらいいなこんなもの」をベースに学習をデザイン

（1）形式の重視・・・話すこと・聞くことの知識・技能

発表会で 友だちわかりやすく伝えるために

話し方を学ぶ 伝える内容を学ぶ

発表会で うまく聞くために **聞き方を学ぶ**

（2）内容をつくる・・・図工科との連携

図工の時間に作った「ロボット」を学級の友だちに紹介する

国語科授業の実際

(1)形式の重視・・・話す・聞くの知識・技能

○「話す人」「聞く人」「モニター」の役割で学習する。

- ・「話す人」・・・声の大きさや紹介の仕方を工夫し、相手にわかるように話す。
- ・「聞く人」・・・「話す人」のロボットの紹介を聞き、ロボットについてのいいところやわからなかったところを伝える。
- ・「モニター」・・・「話す人」の話し方、「聞く人」の聞き方について、よかったところや改善点を自分の言葉で伝える。

国語科授業の実際

(2) 内容をつくる

- 教科書も言語活動教材に頼らない。
- 実際の学習者の実態に応じて、
言語活動のための内容をつくる。
- 本物のコミュニケーションが実現するような
学習をデザインするのは教師の役割。

他教科・領域の学習デザイン

〈他教科・領域における言語活動〉

- 1) 教科に即した形式(教科としての知識・理解、用語や説明の仕方等...)を重視
- 2) 話す・聞く・書く活動をコミュニケーションとして(あるいはコミュニケーションを通じて)成立させる。

算数科授業の実際

単元名「長さくらべ」（小学校1年生 28名 全5時間）

（1）教科に即した形式（長さについての知識・理解）の重視

- ①「端から端まで」
 - ②「縦と横」
 - ③「端を揃える・並べる・まっすぐに伸ばす・折って重ねる」等の説明の仕方
-
- 「こっちとこっち」→「端と端」
 - 「こうすると・・・」→「並べると・・・」
 - 「ピンとすると・・・」→「まっすぐに伸ばすと・・・」

算数科授業の実際

(2) 話す・聞く活動をコミュニケーションとして成立させる
へび粘土の長さの比べ方を交流し、間接比較の
方法を学ぶ。

● 学習者間のコミュニケーション
学習者が自分の言葉で説明する
学習者同士で補い合う、聞き返す

* 先生が説明しない！

A: どうして端を合わせたの？

B: わかんない。

C: 片方の端を合わせないと長さが比べられないよ。

B: あー、そうかあ。わかった。

校内研修運営について

運営の方法

- ・教員各自で取り組む教科・領域を決定
- ・一人一実践を学年部で公開
- ・指導案検討は、研究主任と該当学年で実施
- ・授業参観、協議会は該当学年部で実施

校内研修運営について

全体で共有化を図る研修運営

- ① 学年1名参加の研究推進体制
- ② 学年部を中心とした研究推進
- ③ 全員参観の授業の設定
- ④ 教科を絞った研究推進

おわりに

平成23年度＝新学習指導要領完全実施



「言語活動の充実」のための取り組み

探究的な活動の中で、活用を図ることにより、
言語的思考の知識・技能を確かなものにする。



学習者の実態に応じた学習デザイン

引用・参考文献

- 文部科学省：『小学校学習指導要領解説総則編』、東洋館、2008、p.7
- 上越市立国府小学校：『平成22年度教育計画』、私家版、2010、pp.66-67
- 佐藤多佳子：「言語活動の充実に向けて～「活用」の多様性と学習デザイン」『TEADA No.7』、学校図書、2010、p.13
- 松本修：「新学習要領・小学校国語科の解説」『TEADA No.5』、学校図書、2009、pp.8-10
- 松本修：「言語活動のとらえ方」、国府小学校校内研修当日資料、2010